

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	特定非営利活動法人ミラマーレ・オペラ
公演団体名	ミラマーレ・オペラ

内容
<p>コロナ対応版として、2パターン</p> <p>A.生徒は観客席位置から歌唱とダンスのみの参加とし下記のような内容で行う。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 指導者紹介の後、生の歌声とピアノの演奏でミニ・コンサート。オペラ歌手が児童生徒の間近(十分な距離は取るようにします)で歌います。学校側の希望があれば歌唱もマスク着用のまま行う事も可能です。その後、発声と表現法のワンポイント・レッスン、「てかがみ」合唱部分の歌唱指導へ続きます。2. 練習した合唱部分を基にダンスの振付練習を行います(指導者はステージ上、生徒は十分な距離を取ってフロアで)。3. 演出家がオペラ「てかがみ」の内容説明と、参加する児童生徒の役どころや登場するシーンの説明をします(十分な距離を取って生徒は着席)。4. シーン毎に歌う位置を決め、出入りの導線確認と演技やセリフの練習をします。5. レクチャー時のマスク着用、手指消毒など感染防止対策は徹底して臨みます。 <p>B. 生徒登場はナシで鑑賞のみの場合。 この場合はワークショップでオペラ全般や公演作品の「てかがみ」についてもレクチャーとミニコンサートなどで構成。</p>

タイムスケジュール(標準)
13時訪校、13時30分～15時10分ワークショップ開催(並行して体育館や控え室、借用備品の調査など)、最終確認をして15時40分頃退校。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
主指導者1名、演出家1名歌手2名、ピアニスト1名、制作スタッフ1名の計6名。

学校における事前指導
<p>事前に配布済みの動画資料、譜面や振り付けのイラストなどに目を通しておいて頂き、登場してもらう生徒の参加人数(学年毎か選抜か等々)の目安をつけて頂きたいです。ワークショップ当日までに完全ではなくとも構わないので、合唱の練習をして頂くとワークショップ当日の進行もスムーズに行なえてより効果的になると考えています。</p> <p>★ワークショップは動きやすい服装、水分補給用の飲み物等をご準備頂くようご指導下さい。</p> <p>★感染防止対策のためにマスク着用のままでご参加頂くようご指導下さい。</p>

★生徒参加はナシで鑑賞のみの場合

参加のためにリハーサルは行わないが、事前にワークショップを開催して頂ける場合はオペラの概要説明とミニ・コンサートの実施、「てかがみ」の作品説明などを行う予定ですので、オペラやコンサートなど舞台芸術作品の基本的な鑑賞のマナーなどの事前指導をお願いしたい。

★事前のワークショップを行えない場合は本公演の開演前にワークショップに替えて上記のようなレクチャーの時間を頂ければと思います。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	特定非営利活動法人ミラマーレ・オペラ
公演団体名	ミラマーレ・オペラ

演目

オペラ「てかがみ」
作曲：池辺晋一郎
台本：平石耕一
演出：三浦安浩
振付：三浦奈綾
構成：松山郁雄

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

出演者：27名（指揮者、オーケストラ6名を含む）
スタッフ：15名
合計：42名

タイムスケジュール（標準）

8時学校到着。8時～10時仕込作業。3時間目または4時間目を使ってキャストと参加生徒による最終リハーサル。13時～15時本公演。15時～17時撤去作業。清掃終了後17時30分頃退出。

実施校への協力依頼人員

生徒の入退場時の誘導はお願いいたします。観賞用の椅子を並べる作業をお手伝い頂く場合があります。搬入や搬出、公演中については特段協力の依頼はございません。

演目解説

＜戦争を経験した昭和の記憶を風化させないために＞

オペラ「てかがみ」は21世紀の幕開けを祝し、若者たちに未来へのメッセージを込めて2001年に制作・初演されました。以降全国で再演を繰り返しています。初演では第一回佐川吉男音楽奨励賞を受賞、平成25年には横浜みなとみらいホールの公演で公益財団法人五島記念文化財団の助成対象作品に選ばれています。

この作品は昭和20年と21世紀を迎えようとする平成12年（西暦2000年）の二つの時代の日本を舞台に小さな手鏡をモチーフとして「時代と国を超えた人間の愛」をテーマに描いた感動の日本オペラです。

物語はフィクションですが、戦争当時の捕虜の過酷な処遇、学童疎開の様子なども巧みに表現されています。また広島と長崎への原爆投下や日本中に甚大な被害をもたらした本土空襲の事実も重要なエピソードとして劇中で取り上げており、平和教育の観点からもたいへん有意義な鑑賞を、オペラという芸術スタイルでしか味わえない生の歌声と演奏を通じて楽しんで頂けます。

＜あらすじ＞

平成12年 新潟市内の結婚式場

中学校教諭の武田亮子とアメリカ人の高校英語教師のジョンの披露宴が行われています。宴が始まって間もなく、会場で火災が起こります。炎を見た亮子の父の勇一は、これまで心の底に閉じ込めてきた55年前の空襲の辛い記憶を、突然思い出してしまいます。

昭和20年の新潟港

五歳の勇一は母カヨに手を引かれ、港で働く父の姿を見に来ましたが、母子の目の前で父親の乗る船が事故に遭い沈没してしまいます。ショックを受けて気絶したカヨを、アメリカ人捕虜の軍医、チャードが介抱します。

カヨは五歳の勇一と共に疎開する事になり、夫の形見の小さな手鏡を、自分を介抱してくれた軍医リチャードに手渡してくれるよう、運送会社の杉本監督に託します。

長岡市空襲跡

8月1日の長岡大空襲から逃げ延びた五歳の勇一は、杉本監督と再会し、炎の中で母親を見殺しにしてしまった事を泣きながら告白します。杉本監督は「忘れろ！心の底に沈めて誰にも言うな…」と抱きしめ、カヨの面影が残る勇一を自分の子どもとして育てる決意をします。

終戦を迎え帰国する事になった軍医リチャードは、勇一と杉本監督に「時は流れ、この子たちがこの国を担う！この時代にあった事を忘れないなら…」と言い残して日本をあとにします。

平成12年 結婚式場

亮子は、式場の火事がきっかけで思い出された父の辛く悲しい記憶を初めて耳にし、今まで父の苦しみにも気づかず教鞭をとってきた自分には、みんなから祝ってもらう資格などない！と披露宴の中止を申し出ますが、その時、父親の勇一が突然、リチャードの「この子たちがこの国を担う。この時代にあった事を忘れないなら…」という言葉

思い出したことから、リチャードがジョンの祖父であることが判明します。ジョンの母レイチェル（即ちリチャードの娘）は自分の母（リチャードの妻、劇中には登場せず）から渡された手鏡を亮子に渡すのですが、実はこの手鏡こそ、55年前に亮子の祖母カヨがリチャードに贈った「てかがみ」だったのです。亮子の祖母の手を離れアメリカに渡った手鏡が多くの人達の愛の力で再び日本人の手に戻った瞬間でした。披露宴は再開され、二人の希望に満ちた明日を全員で祝福して幕となります。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

参加する児童生徒には振付がついた合唱と簡単な台詞の応答で参加して頂きます。

- a. 亮子先生の結婚式で、教え子達としてお祝いの歌を披露します(3シーンあります)。
- b. 戦時下の日本の様子を表現した学童疎開のシーンに助演として登場します(このシーンは扮装をして登場するだけで歌いません)。

キャストに会場係、接客係という役どころを設けてあり、出演生徒の登退場のタイミングや台詞と歌唱部分のきっかけを補助します。

★いずれの参加シーンも台上と下など、生徒とキャストの立ち位置は分けるように演出方法で工夫をいたします。

★出演前に舞台裏に滞在する必要があるように客席の鑑賞位置から登場するように演出方法で工夫いたします。

児童生徒とのふれあい

1. 出演する生徒の登場シーンを中心に一緒にリハーサルを行います。
2. 登場前に舞台裏の様子を見学してもらう事ができます。出番前の緊張の時間ですが、キャストともふれあえる貴重なひと時となります。
3. 要望があれば終演後に生徒さんとキャストの代表で交流の時間を作り、質疑応答にもお応えします。

★2と3についてはコロナ対策として割愛する事も可能です。